

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1495100057
法人名	株式会社ヘルシーサービス
事業所名	ガーデンコート川崎
訪問調査日	平成20年10月29日
評価確定日	平成20年12月 5日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1495100057
法人名	株式会社ヘルシーサービス
事業所名	ガーデンコート川崎
所在地	川崎市幸区下平間357-2 (電話) 044-520-0311

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22 川本ビル2F 207号室		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	12月5日

【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 3人, 非常勤 15人, 常勤換算 8.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 90 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎セツルメント診療所、日航ビル歯科室
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・JR南武線鹿島田駅より徒歩約14分、「武道館前」バス停からはすぐの商工住が混在する市街地に立地し、併設の小規模多機能ステーションと施設の一部を共有している。 ・共有スペースにはソファや畳を敷き冬にはこたつを設けるなど、利用者が思い思いに過ごせる場を工夫している。 ・理念の1条に「自己研鑽と技術の向上」を掲げ、職員自らの学びを相互に教え合いながら、質の高いケアの実現を目指している。 ・利用者は併設の小規模多機能ステーションと日常的に交流しており、職員はそれぞれの機能を活かしながら協力連携してサービスを提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事は、管理栄養士が作成したメニューに切り替えた。 ・今年度の事業計画書に、家族や地域へ利用者の暮らしぶりや事業所のサービス内容を伝える「ホーム通信の発行」を盛り込んでいる。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は、管理者が職員に外部評価の意義を説明し、主任と話し合っまとめた。 ・現在、新入職員の育成に努めており、今後、自己評価を活かして、サービスの質の改善に取り組む方針である。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は6月と10月に開催している。参加者は地域代表として商店主、家族代表、区役所担当課職員、医療機関看護師、および事業所の管理者、主任、ケアマネージャーである。 ・主な議題は、外部評価結果の報告や事業所の現状、取組み課題の説明であり、意見を交換し提案を得ている。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の意見や苦情については家族の来訪時に聴取し、出された意見や要望は職員会議で検討し共有化している。 ・苦情や相談窓口は、重要事項説明書に明記して契約時に説明し、各フロアにも掲示している。出された苦情は、マニュアルに沿って対応している。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社の方針で開設当初から、利用者と一緒に地元の商店を利用して買い物をするなど、馴染みの関係になっている。散歩に行く近くの公園で子どもたちと触れ合ったり、すれ違う近隣住民と挨拶を交わしている。 ・近隣に居住する職員を通して地域との連携を図り、民謡とフラダンスのグループをボランティアとして受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念とは別に、事業所独自の理念として「敬愛あふれる家」を基に、「より良いサービスを提供するための5カ条」を作成し、事務室と各フロアに掲示している。 ・理念の実現に向け、管理者が具体的方策を年度初めの会議で職員に説明し、その内容を書面にして職員一人ひとりに配布している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者が業務中や日々の会議、月一回の拠点会議で理念の実践に向けての具体的方策を職員に話している。 ・職員は、ケアカンファレンスや日々の業務中にコミュニケーションを図り、理念の実現に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・本社の方針で開設当初から、利用者と一緒に地域の商店を利用したり、行きかう地域の方と挨拶を交わし、馴染みの関係を大切にしている。 ・地域のボランティアが、近隣居住の職員の紹介で民謡とフラダンスを披露して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が職員に外部評価の意義を説明し、自己評価は主任と話し合っまとめた。 ・新入職員が多いので、現在は業務の基礎固めと位置づけて職員の育成に努めており、今後、自己評価を活かして改善に取り組んでいく方針である。	○	・全職員が自己評価に取り組むなかで改善点に気づき、評価の結果をサービスの向上に活用することを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・今年度は6月と10月に開催し、外部評価結果の報告や、事業所の取り組みの現状を説明している。 ・メンバーは地域代表として商店主をお願いしているほか、家族代表、幸区役所担当課職員、医療機関看護師、および事業所の管理者、主任、ケアマネージャーが出席し、提案や意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・機会あるごとに川崎市役所や幸区の高齢者支援課を訪れ、地域ケア会議の案内などの情報を得ている。 ・川崎市発行のパンフレットで、虐待防止や権利擁護の内部研修を行い、サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりは面会時にその都度伝えている。また、毎月、健康状態や行事報告及び必要なお知らせ(インフルエンザの予防接種)を書面で郵送している。緊急時は電話連絡をしている。 ・出納帳は個人別に記帳し、家族の来訪時に領収書を添えて報告している。	○	・定期的な配布物で利用者の暮らしぶりや行事内容などの理解を深めるものとして、現在発行を検討している事業所通信の早期の実現を期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者や家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めている。 ・提出された苦情は、対応マニュアルに基づき、会議で対策を話し合っている。 ・各フロアには、苦情相談窓口の連絡先を掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者や家族が不安にならないよう、職員の突然の異動や離職は最小限に抑えるよう、法人本部と連携を取り合っている。 ・新入職員は、一定期間ベテラン職員と一緒にサービスにあたることで、利用者の特徴理解と馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月ごとにテーマを決めて年間研修計画を作成し、職員の自己研鑽と技術の向上のための機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。 ・新人研修には内部研修と隔月の法人本部研修があり、新人の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣のグループホームの管理者と話し合い、新人研修を受け持った実績がある。 ・法人内の他施設と交流研修を行っているほか、各施設を巡回している本部のケアマネージャーから情報収集してケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者が、入居前に家庭や病院へ出向いて本人、家族と面談し、要望や不安を話し合い利用者の理解に努めている。 ・事前に併設の小規模多機能施設を利用しながら当事業所の雰囲気を知ってもらい、安心感を持って入居に移行してもらうなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、人生の先輩である利用者から様々な場面で助言を受けている。子育て中の職員は、子育ての体験談に学ぶことが多い。 ・利用者は、買い物や食事の準備、掃除など日常の暮らしの中でそれぞれに役割を持って、互いに支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居前に担当職員が家族や本人から、習慣や暮らし方の希望などを聴き取り書面で確認している。 ・入居後は、職員が日々利用者から思いや意向を傾聴、観察し、家族の面会時に意向の把握に努めている。把握した事は業務日誌や申し送りノートに記録し、会議で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・業務日誌の内容や、面会時に聴取した利用者や家族の意向を介護計画に反映している。 ・職員はケアカンファレンスで利用者ごとの状態を検討して、介護計画を作成している。 ・介護計画は、通常6か月ごとに見直している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月一回のカンファレンスで利用者の心身状況の変化を聞き取り、それぞれの課題を見直している。 ・心身に変化が生じた場合は、その都度利用者本人、家族に報告し同意を得た上で、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・協力歯科医による職員向け「口腔ケアについて」の研修には、利用者、家族も参加して認識を深めている。 ・併設の小規模多機能施設とは日常的に交流があり、利用者同士が会話したり一緒に趣味活動をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関の内科医が週一回往診しているほか、必要に応じて歯科の訪問診療を行っている。 ・利用者や家族の希望により、これまで受診してきたかかりつけ医を利用することも可能であり、その場合は家族に付き添いをお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・契約時にターミナルケアの事業所方針を家族に説明している。重度化に備え家族と話し合っターミナルケアの同意書を取るなど、対応可能な限り受け入れる体制がある。 ・過去に、協力医療機関の内科医と訪問看護師、家族、職員が連携して最善の方法を話し合い、最期まで看取ったケースがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の自尊心やプライバシーに配慮したケアについての運営規定やマニュアルがあり、管理者が日々職員に話したり会議で説明し注意を喚起している。 ・職員は入職時に個人情報に関する誓約書を提出している。 ・個人情報に関する書類は、施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・バイタルチェックを基に体調に配慮しながら声かけして、その日の過ごし方の希望を聴き取っている。 ・買い物や外出、音楽を楽しんだり、施設内を散歩するなど、ひとり一人の生活リズムを尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の好き嫌いを記録して、嫌いな食べものは無理強いせず代りを提供している。 ・利用者はもやしやひげとりやじゃがいもの皮むきなどの下ごしらえ、配膳や下膳、食器洗いを自分の力を活かして職員と一緒にやっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、自分のペースで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は原則週2～3回としている。利用者からの毎日入浴したい希望には、心身状態を見ながら対応している。 ・入浴を好まない人には、予め声掛けし、気分的に入浴の準備ができるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・リビングの掃除や洗濯物干しなど一人ひとりの力量や希望に応じた仕事や役割を見つけて、利用者が張り合いや喜びを持てるように支援している。事務室の座布団を編んでもらい、職員は感謝の言葉を伝えている。 ・歌や踊り、ビーチボール投げなど一人ひとりが生き生きと楽しめる場面作りを工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・その日の利用者の体調や要望に応じて、近くの公園への散歩やスーパーへの買い物に出掛けている。 ・横浜の中華街や平和記念公園へドライブに行くなど、四季ごとの外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の開閉は、暗証番号による自動ドアである。安全面と防犯上施錠していることを家族に説明し、了解を得ている。 ・外出傾向のある利用者には職員がさりげなく見守り、思いを受け止めて対応している。居室の鍵は、本人に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急連絡網は事務所に掲示し、8月には職員会議で災害対策について研修し、避難場所の確認や火災報知器の実践訓練を行った。11月に防災・避難訓練を実施する予定である。 ・災害時の非常用スコップ、懐中電灯を備えている。	○	消防署の指導と地域の方々の参加を得て、防災・避難訓練を定期的に行うことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取量は個人別に記録している。 ・食事は、管理栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成し、利用者の身体状況や好みに応じて調理を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間は日当たりが良く、利用者はリビングのソファで寝転んだり、畳敷きの場所は冬季にはこたつを置いて、くつろぎの場となっている。 ・居間では食事の支度の音やにおいがして生活感がある。また、季節の葉や草花を貼った手作りのカレンダーや行事の写真、利用者のぬり絵の作品を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時には馴染みのものを持ち込むように説明している。各居室は使い慣れた整理ダンス、家族の写真や仏壇が置かれ、好みに応じてベッド、畳敷きに布団にするなどそれぞれに居心地よく過ごせる工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ガーデンコート川崎
(ユニット名)	2階・3階ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市幸区下平間357-2
記入者名 (管理者)	難波 一修
記入日	平成 20 年 10 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「より良いサービスを提供するための5カ条」と題し、独自の理念を作りました。「敬愛にあふれる家」というものが根底にあります。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアカンファレンスや日々の業務中でもコミュニケーションを図り、理念が浸透するよう努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域との密接した関係作りを掲げ、地域住民の方に理解されるようよう散歩時の挨拶等に努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のスーパーに買物に出かけたり、近隣の方にボランティアで来て頂いたりして、交流を深めています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民謡やフラダンスのボランティアの方に来て頂いたりして、地域の方との交流を図っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近隣の踊りやフラダンスのボランティアの方にお越し頂いたり、食材の買物をする際に、近所でお困りの方の介護相談を受けたりして地域に役立つ情報交換を行っています。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービスの自主点検や毎月の職員内での会議において、勉強会を行い、サービスの改善に努めています。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの取り組み状況を報告をしています。提案などは今後生かしてサービスの向上に努めていきます。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>機会がある毎に、役所に訪問し情報収集に努めています。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>9月の会議時に権利擁護や成年後見制度について勉強会を行いました。現在、活用されそうな方はおりません。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>9月の会議時に虐待についての勉強会を行いました。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用前にご本人様とご家族様との面談を行います。不安な点や疑問点に関しては十分にご説明させて頂いています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部(市・国保連)に相談窓口をたてています。また、弊社の本部にも相談機関があり、施設内に掲示してあります。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりやサービスについては連絡帳に記載し、ご家族様に報告しています。また、送迎時にもご報告させて頂いています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部(市・国保連)に相談窓口をたてています。また、弊社の本部にも相談機関があり、施設内に掲示してあります。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティングや業務上のアンケートを用いて提案を聞いています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>お客様の活動時間を考慮し、勤務の調整を行っています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>突然の異動や退職のないよう本部と連携を図っています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年、研修計画を立て実行しています。協力医療機関等法人外の方の研修を行っています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の他施設との情報交換を行っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々のミーティングや機会がある毎にコミュニケーションを図り、職員が働きやすい環境に努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>随時、管理者とコミュニケーションを図り、管理者からアドバイスをしたり、問題提起をしたりし、向上心をもってもらうよう工夫しています。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前にご本人様とご家族様との面談を行います。不安な点や疑問点に関しては十分にご説明し、ご本人様のニーズを十分に聞き、サービスを行っています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回時の面談や契約時において要望等聞く機会を設けています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他サービスに切り替わっても、電話や直接の来られても相談ができる体制にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者がご本人様にこまめにコミュニケーションを図り、ニーズの把握や意向等を聞き、柔軟に対応出来るよう提案しています。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前面談時に生活暦等をお聞きしています。利用前に職員の業務日誌に閲覧できるようにし、共有化を図っています。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングや申し送りでの状況把握に努め、介護職員からケアマネージャーや管理者に報告し、変化がないかチェックしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りでの状況把握に努めています。ご家族様宅への訪問や面会等で話し合い、介護計画に落とし込んでいます。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い状況の変化が生じた場合に再考し、ケアプランの立案を行っています。また、適時カンファレンスを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に記載し情報の共有化をしています職員全員での情報の共有化を図る際には連絡ノートで周知徹底を図っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の急用等緊急事態が発生した場合でも柔軟に対応出来るよう工夫しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災については、職員の会議内において実行しています。今年度も年2回を予定しています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様やご家族様の意向に応じ、他のサービス事業者等と協議し支援しています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、対象となる方がいない為地域包括支援センターとの協議は行っていません。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医療機関との関係は築いていますが、協力医療機関以外の医療機関については関係が築けていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけやマナーについては弊社のマニュアルや日々の啓蒙等で注意を促しています。個人情報の保管は、施錠できる場所に保管しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員には傾聴を心がけるよう徹底し、要望等の把握に努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、急な希望で入浴等も対応出来るようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	当事業所に月1回、訪問理容の方が来ます。本人が他の理容室等を希望されればそのニーズにお応えしますが、現在は特に要望はありません。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じ、季節感のある食事を職員と共に作り、食事の楽しみが演出出来るように工夫しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、病歴等を加味し提供しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェックを行い、パターンや習慣を活かし支援しています。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望に応じた形で入浴を行っています。体調不良等での中止もあるため、入浴前には必ず希望を聞いた上で実施しています。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>全部屋個室になっていますので、安心して休息が取れるよう配慮しています。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>趣味やその時したい事等をお聞きし、生きがいに繋がるよう支援しています。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理は原則不可となっていますが、必要に応じ、職員同伴で買物の際にお預りしているお金を渡し買物をしています。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>適時、ドライブや買物にお連れし、屋外に出る機会を設けています。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外出は基本的に自由なのでご家族様と食事に行かれたりする方もいます。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合はその都度対応しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会も自由なので、ゆっくり出来るように場所の提供をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる方がいませんが、ミーティング等で身体拘束による弊害といった事を話しています。9月の会議時に身体拘束禁止について勉強会を行いました。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者等の兼ね合いがある為、玄関は暗証番号で施錠出来る自動ドアになっています。屋外に出たい要望があれば職員付き添いで出入をしています。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間双方、担当職員が定期的に巡視や様子観察を行い、申し送りで情報の共有をしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理が困難な場合等は、職員側で保管する場合には必ずご本人様へ状況報告しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りで歩行不安定な方等リスクがある方の対応方法を共有化し事故を未然に防ぐ努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時の対応については、連絡先等マニュアル化しています。新しく入社した職員もいるので、対応方法については再度指導していきます。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>職員の会議にて防災時の取り扱い(避難場所の確認や初期消火等)の説明を行いました。今年度も2回行う予定です。</p>	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>面会時に状況報告している中でリスク等の説明も行っています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>職員がミーティングや申し送りで情報の共有化を行い、往診のドクターならびにご家族様へ連絡を取り対応しています。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お客様の個人ファイルにて薬の情報を閉じており、職員が閲覧、確認できる状態になっています。変化や症状が安定している場合等、看護師に報告し、ドクターにつないでいます。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い、パターンや習慣を活かし支援しています。また、出来るだけ薬に頼らず、身体を動かしたり、飲食物の工夫を出来るだけ行い対応しています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査や咀嚼等、一人ひとりの状態に合わせた食事を提供しています。今月より、管理栄養士作成のメニューに切り替えました。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを用いて、職員の会議で勉強会を行いました。今年度も実施すると同時に、日々啓蒙しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理や調理器具等日々行っている。また、保健所の指導もあり適切に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターフォンが鳴るとモニターに表示されるので、不審者の確認が出来るようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾や工作を行い心地のよい環境を工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の習慣がない方は座敷をご利用頂いたりして工夫しています。ソファでのお茶やおやつを食べたりしてくつろげるスペースも確保しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂くようご案内しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室には24時間換気が設置してあり空調については、職員が室温調整を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手すりが設置してあり歩行困難な方や車椅子の方が使用できるよう工夫してあります。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは分かりやすいようにドアの扉の色が目立つようになっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴を兼ねベランダに出て小動物鑑賞を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月の会議時で勉強会を行い、着実にスキルアップしていると思います。入居者がガーデンコート川崎で安心して生活できるよう、職員の技術や知識、マナーの部分を向上できるよう、今後も継続していきたいと考えています。